



### 島根に生れ、島根で育ち、やがて島根の土になる 竹下登記念館落成式・銅像除幕式

ふるさとへの偉大な先人・竹下登氏の偉業を偲ぶ、竹下登記念館と銅像がこのほど完成し、5月27日、その落成式と除幕式が執り行われました。竹下登氏は、大正13年に掛合町の酒造会社（現在の㈱竹下本店）で生まれ、早稲田大



第74代内閣総理大臣に就任され、税制改革の「消費税」導入や「ふるさと創生」事業に取り組みられるなど、国政に大

きく貢 献され ました 竹下 本店内 で挙行 された 落成式



竹下氏を偲ぶ関係者ら

そして、昭和62年には、巨象議員、野中広務元衆議院議員、速水市長らがテープカットをし、竹下登氏の遺徳を偲んだ遺品や資料の展示してある記念館の完成を祝いました。

落成式に続き、道の駅「掛合の里」緑地公園に建立された銅像の除幕式が執り行われ、雨模様の中、政財界など縁のあった大勢の関係者が参列しました。

式では、速水市長が「ふるさと創生の意思を引き継いでいかなければならない」と話したほか、竹下登先生の銅像を建てる会の橋本恵会長が「郷里に立派な銅像が建立でき感謝しています。先生のふるさとへの多大な貢献を顕彰していきたい」と謝辞を述べました。

東京芸術大学の本郷寛教授により制作された銅像は、台座部を含め高さ約4mで、台座には竹下氏の碑文「島根に生まれ、島根に育ち、やがて島根の土になる」が刻まれています。

5月26日、元内閣総理大臣竹下登先生の7回忌を迎えるにあたって、生誕地掛合町で先生のご功績を顕彰する竹下登記念館の落成式が、また27日には同先生の銅像の除幕式が行われました。両日ともあいにくの雨でしたが、県内外からまた遠方よりも多くの方々に参加されました。雲南市が発足して1年半、新たな自治体創りに懸命に取り組んでいます。住民自らが地域づくりに参画し、自分たちの住んでいる地域に自信、愛着、誇りを抱きながら暮らすことの出来るまちづくりこそ先生の教えである「ふるさと創生」の実践であると確信しています。

掛合の道の駅の奥に立つ銅像は、そうしたまちづくりに取り組む私たちを、「みんながんばれよ」と励まし見守ってくださっているものと感じます。

地元にとつて、銅像の建立により、親しみ深く慈愛に満ちた先生にいつも会える幸せを与えていただいた多くの皆様に心から御礼を申し上げます。共に、今後とも元氣いっぱい「ふるさとづくり」に進める事を誓った次第です。

(雲南市長 速水雄一)

5月27日・竹下登銅像除幕式にて

### 大東町発

## わがまちの

この「トナリ」では、地域に根付いている伝統工芸や地域ならではの活動をされているみなさんを紹介していきます。

# 巧み

たく

## ホタルの里をめざして

### 赤川ほたるの保護・養殖活動

今月は、大東町大東地区にお住まいで、赤川ほたるの養殖や河川清掃などの保護活動をされ、赤川ほたる保存会副会長の恩田哲男さんを紹介いたします。



### 赤川ほたる

大東町の赤川ほたる（ゲンジボタル）は、約250年前、松江藩主 松平不昧公が京都から持ち帰り、放したものと伝えられています。

このホタルが生息する赤川には、ホタル工法（ホタルの生息に配慮した工法の総称）により整備された「ホタル公園」や「七夕公園」があり、今年も多くのホタルを目にすることができました。

全国的に生育環境の悪化などによりホタルの数は減少傾向ですが、赤川では、赤川ほたる保存会の保護活動や恩田さんの養殖・放流活動により、ホタルは数を増やし、定着しています。

また雲南市には、「雲南市ほたる保護条例」が制定されており、赤川ほたるばかりでなく、市内全域でのホタルの保護が定められています。

### 保護活動のきっかけ

元タクシーの運転手だった恩田さん。昭和50年頃、お客さんから「ホタルのたくさん飛んでいるところへ案内してください」と言われ、案内したが、ほとんどホタルがいないうちに気づきました。「このままではホタルが全滅して



しまうのでは」と思い、なんとかホタルを復活させようと、飼育しはじめたのがきっかけです。

最初は、手探りの状態からスタートし、観察を重ね「幼虫も光ること」や「数回に分けて産卵すること」など新たな発見をしながら、現在のホタル養殖のスタイルを確立されました。

### ホタルの養殖

6月上旬から下旬にかけてホタルは、1匹が500から800個の卵を産みます。孵化した幼虫はカワニナを食べて大きくなり、幼虫のまま冬を越します。そして、4月頃、土中でさなぎになり、5月下旬頃から成



虫になります。恩田さんの自宅にある飼育室内には、多くの飼育槽や定温器などがあり、30年に渡り培ってきた経験を活かし、ホタルの生育に適した、自然に近い環境の中で養殖されています。

今年も恩田さんの飼育室から、およそ6万個の卵が孵化し、7月には大東小学校の児童らとともに、幼虫を赤川へ放流する予定になっています。

### ホタルの里

恩田さんは「現在地元の小学校児童のみならずホタルを放流したり、観察会をしたりしています。このような活動を通して、ホタルを守っていくという気持ちを受け継いでほしいと思います。また、子どもも垣見たホタルが飛び交う情景が再現されてきました。市内全域でホタルの保護活動が広がり、大東ばかりでなく、雲南市がホタルの里になれば」と話しています。